

中村俊定文庫
文庫 18
971



北川子詩

感時茫濺淚
恨別鳥驚心



井肩子文庫中之句

重聲玉書收効擧于

杜少陵之這名律者非

那清暑愛雲野鳥
憐露之戀情出沒葉却
之域胡頓曉其臺之御悉
是因循主人優遊涵咏
之雅致馬噫

生瑞馬識



花鳥之庫春之部



浪速五春在井眉邊

花

ふらりちりちりうれと眼を用る

升六

つららのちよけしやそらうら

邊柳

ふ海乃のひよさそりふの雨

尚光

終付てそれもおられつ庵乃らふ

乃辰

のしとくさかふ乃春うま

南冥

ちつちつちちけいのきぬ戸口うね

春哉

ふしらの名れたうらそら乃中

本僊

種ふくも花より花とのまゆりま

尾法 士郎

まきまきりしそまきりまき花のうけ

十 米倉

まゆりりくろくろれとちひかり

十 里木

ちりりりりりりりりりりりりりり

方氷

花一本も花もひりりりりりりりり

長江

まきまきりりりりりりりりりりり

真鳥 真鳥

まきまきりりりりりりりりりりり

梅鳥 梅鳥

初花やうらやうらやうらやうらやう

五 五城

まきまきりりりりりりりりりりり

毛 毛筆

花とまきりりりりりりりりりりり

戸 成美

唯織乃くち中まきりりりりりりり

三千虎

山りりりりりりりりりりりりりり

竹 竹雄

獨りりりりりりりりりりりりりり

方 方成

まきまきりりりりりりりりりりり

木成

白まきりりりりりりりりりりりり

友 友樹

花のまきりりりりりりりりりりり

尾 虎道

松風の夕へりりりりりりりりりり

其 其白

夕まきりりりりりりりりりりりり

霜 霜操

大まきりりりりりりりりりりりり

東 東地

月まきりりりりりりりりりりりり

花はさきも森にさかすまはるる心平 とサキ 其映
 およりてやのちいしきるにこそ とサキ 戸方
 戸を押しあふるはるるにけり とサキ 分貫
 能中乃漢をりしと花のくさ とサキ 了亮
 花さきしきまてかりしふの心 とサキ 萬頃
 うつしき花をさかすも月平 とサキ 顔鶴
 身にのれぬありきし夜乃 ハカマ 厄詞
 ころきまてしきるる 徳中道忌 蘭香
 しの中乃情いさう とサキ 大塚
 うつしき とサキ 三井人

若きころの酒をさしあそびて又思ふ心も
 縁りまきわななみなりしころに

酒部をにぎのきせよサキの花 惟然

月馬相也卓王孫の女又思ふ心もさかすまはるる
 又思ふ心もさかすまはるる酒部をにぎのきせよサキの花
 酒をさきしきまてかりしふの心
 うつしき花をさかすも月平
 身にのれぬありきし夜乃

葉一把うらむ心くさくさ とサキ 端水
 孫景安 とサキ 了亮
 うらむ心くさくさ とサキ 約翁
 山風乃 とサキ 弓雄

日けねをよしりてましハる候

ユト

若翁

け中の鶴も白し逢さる

ユト

吾雀

木のむらけもみちをさる候うま

ユト

雪々

けつらま日なりつみやあつらる

イカ

香岡

夕らるるふらふらあつらる

ユト

今亭

さつららて穴のちのちさつらら

イセ

淇石

あつらるるさつららあつらる

ユト

中翠

ららるるさつららあつらる

ア

八朝坊

あつらるるさつららあつらる

ユト

米彦

はつららさつららあつらる

ユト

万和

ららるるさつららあつらる

ユト

古音

ららるるさつららあつらる

ユト

豊々

ららるるさつららあつらる

ユト

吾友

ららるるさつららあつらる

ユト

層謀

ららるるさつららあつらる

ユト

春思

ららるるさつららあつらる

ユト

砂童

ららるるさつららあつらる

ユト

二巾

ららるるさつららあつらる

ユト

後駕

ららるるさつららあつらる

ユト

菊地

ららるるさつららあつらる

ユト

支電

胡瓦乃あさらるゝいん様う那 とに 下巻
 遠くにはさるゝ場をさるゝ 無暇
 中へやふあさるゝ日さるゝ か海
 遠くは乃行をさるゝ 三ツ 介友
 言ひさるゝ 信 在中
 遠くさるゝ 少会 菊守
 山様あさるゝ ナラ 杜口
 初さるゝ 才色 雲平
 仲のさるゝ 才色 楚清
 さるゝ人乃 乃月 清女

さるゝ 才色 丹兵衛
 ねねの 但馬 子貫
 はさるゝ 才色 赤谷
 さるゝ 才色 日人
 人乃 才色 字母
 さるゝ 才色 五郎
 腸の 才色 十六
 乃 才色 萬巻

長耕

か 福のころちでいらるらるる麻 本節
中くの説ゆ福は冥福をうらるるころちり好年の
らあふととるいみりしうし

梅

らるるころちいこまらる梅のころち
うらるるふひわてゆり ぼるる
平あつるや舟いこまらるころちのそ
こ日かそ月あつるうらるるねか
るぼしお羽のうらたよとのかて
菴のあらしこころちりうらるる花
うらるる中と花の菓ころちら

追い 千歌
十夕 良光
小念 北漢
イヨ 完車
坂下 于商
イヨ 虎角
とら 宇輝

ほやしころちらる梅のころち
世話よふふひいこまらる梅のころち
うらるるいこまらる折とたり
羽飯の休をそあつるころちのそ
さくわをほつるしと梅のころち
めくわをころちらるくのころちり
ひつるころち 勝口重しころちらる
日あつるのころちらる梅のころち
うらるるあつるあつるころち
うらるるあつるあつるころち

イヨ 櫻子
アキ 宇柏
山羽 龜年
ヨト 竹露
日 如 幽
十夕 驕心
坂中 東平
まな 天馬
まな 天馬
ほ 笑九

うらねしーいふらふし梅のむ イセ 指已

ふつ代やふしぬあよふのむ 飛江 人角

うらねしーいふらふし梅のむ 毛 毛筆

梅のや飯細ほく部りゆ 上并 朴哉

ふしーの骨折えて梅のこま 了 了

ふしーの骨折えて梅のこま 与 与

ふしーの骨折えて梅のこま 与 与

ふしーの骨折えて梅のこま 与 与

ふしーの骨折えて梅のこま 与 与

ふしーの骨折えて梅のこま 与 与

ふしーの骨折えて梅のこま 与 与

ねふ風のややふらふ梅のむ カヒ 有斐

ふらふらふらふらふらふら 日 外

ふらふらふらふらふらふら ヨト 杜六

ふらふらふらふらふらふら 日 吐鳳

ふらふらふらふらふらふら 夕 野旌

ふらふらふらふらふらふら 今 一燕

ふらふらふらふらふらふら 夕 一棹

ふらふらふらふらふらふら 一 一鶴

ふらふらふらふらふらふら 廿 梅元

ふらふらふらふらふらふら 廿 梅元

ふらふらふらふらふらふら 廿 梅元

うんのおちるゝあるまよも 尊を 世 皇仙
 障りりくくわいれりり 坊う 軒 日 鳳兮
 梅くくりりりりりりりり 梅乃り カヒ 雲行
 こまのちやうりりりりりり 梅の花 カヒ 雲羽
 くくわいりりりりりりりりりり 世 佛水
 音ふ満くまのちりりりりりりりり 世 氷儿
 井れ中の月夜とまりりりりりり 世 長翠
 柳 カ 竹有
 一うまよめりりりりりりりりりり 平 春蟻

中しにやもやもやもやも柳柳 カ 眉山
 藤八日の柳もももももももも カ 嵐角
 三の熱れくくくくくくくくくく カ 弁交
 二こくくくくくくくくくくくく カ 葵瓦
 ち柳柳一丁柳柳柳柳柳柳柳柳 カ 由肆
 胡戸出たりせん眼よとやる柳柳 カ 巴洞
 ち柳のらるる柳柳柳柳柳柳柳柳 カ ち河
 牽りりりりりりりりりりりりりり カ 柳江
 山海乃やりにやうく柳柳柳柳 カ 士川
 ち柳れちちちちちちちちちち カ 瓦全

大

ねんころり火とくくあの花うら

下キ

後花

系奔もどれ神くくあふり

日

雙枕

開の戸とさくらわいりくる柳うま

白伴

陰英

清涼くくねくくく柳うら

出

煉く

ほふふにゆへいりゆるやまき

井眉

わう菜 くらさけさのさくらあさりの

下キ

為老

系のもう田乃くくあさり

下豆

くらね戸や市人くくわうまけ日

甘

桃里

まろ戸のくくあさり

出

菓

五形 極くや五形の中乃松二本

体

雪

わうき 本食の 慶もくほくぬま乃料

下

舌

わうくちや二日月星そく人のり

下

撫

人まは風のをりよけよのそ

下

秀

行まのくくあさり

下

其

くちんのあさり

下

吐

くちんあさり

下

芽

家菜、 法業生の人はあさり 家菜

下

東

茎 鶴とアサりからあさりの茎うら

下

字

あけわのくくあさり

下

并

あさり

下

其

山にありてまうたよまても不き
サミ 葛三

玉川のせせりりけをりふたれ
イセ 桃家

若くにんしよまこつと花並
八千

芥の根乃まむまらふまきぐり
フキ 圭雨

木を結くも人の出づけて花荷
イヨ 起龍

まはもの隙さへ味し芥蘇
小まき山 無物

門もつて芥荷のまうゆへつら
イヨ 其遊

うたふるふ心乃脊中もね乃を
已明

きのつぎしんも味しうまうま
ハリ 玉屑

無らうるたれふゆや旅乃を
竹亭

かみらあやけ内十里を旅の者
梅後

茶花の花の跡もくちわて内の海
タ 菟道

不自中まをちれくくくく蕨うま
春我

あまうらに蕨つらもなきと野
ツシ 秋玄

はらへくあぬらまむいふうり々
チセシ 五郎

山吹や一葉りまきと葉のそり
奇淵

やうらあやけのらけに空そら
信長 牛後

ふつふらうまうり會新へらうり
日 森林

あゆまのやうらうらうり
井眉

あうら日とみしめて笑花うり
南俱

椿

山吹

蕨

蕨

菜種

松の花

芥荷

荷

芥

桃

古きぬらけしらあしくむ花うも
ナイ明
 みやうあやあうらうらうらうら
ミ霞湖
 あくぬのほそ花乃らうらうら
ホ此柱
 日らけりふらた梅さう花うも
 弓旗
 うらきりとして口のあうや赤花
豊有堂
 花うらうらや花乃らうら
ヨ本河
 むらうし京の垣ひのむれ花
日園水
 まのこしりまにやうらうら
日南漢
 鶯乃ものそり付よも乃けま
 釣翁
 白けり花のさうけしものむ

藤

あくぬのあにうらむも乃ら
カ深々
 白もやうらむらうらぬぬのむ
日下及
 極うらうらうらむらうらうら
日臨真
 くのむにやうらむらうら
日雪雄
 うらうらうらうらうらうら
 弓雄
 うらうらうらうらうらうら
 成美
 山の井乃うらむらうらうら
フお己
 日らけりふらた梅さう花うも
カ楚堂
 あくぬのほそ花うらうら
カ祥未
 白もやうらむらうらぬぬのむ
カ未粗

三

ふくくふくくくくくくくくくく

下の用 憐處

くくくくくくくくくくくくく

下迄 左節

くくくくくくくくくくくくく

イセ 省紙

くくくくくくくくくくくくく

素由

くくくくくくくくくくくくく

七草 可史

くくくくくくくくくくくくく

大ら 一違

くくくくくくくくくくくくく

子草 一鏡

くくくくくくくくくくくくく

楚清

くくくくくくくくくくくくく

ねち 廣布

くくくくくくくくくくくくく

後十 曲江

くくくくくくくくくくくくく

方珠

くくくくくくくくくくくくく

何頼

くくくくくくくくくくくくく

二有

くくくくくくくくくくくくく

石伴 菊房

くくくくくくくくくくくくく

ツシ 五湯

くくくくくくくくくくくくく

小倉 康哉

くくくくくくくくくくくくく

千草 春江

くくくくくくくくくくくくく

は内 八之

くくくくくくくくくくくくく

輝友

くくくくくくくくくくくくく

千草 何来

くくくくくくくくくくくくく

何来

くくくくくくくくくくくくく

何来

くくくくくくくくくくくくく

何来

くくくくくくくくくくくくく

何来

くくくくくくくくくくくくく

何来

くくくくくくくくくくくくく

何来

くくくくくくくくくくくくく

何来

くくくくくくくくくくくくく

何来

五

引鶴の遠よりしめてかき等やを花 カ 巴石
 多しとへおのころしぬやを花うぬ カ 茂翁
 やうらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 古猿
 多の芽これお付ても等やを花 カ 久常
 やう花うらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 鞍凡
 羽うらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 芳之
 きし等やほつらうり下話の通うぬ カ 古猿
 大ころのやうらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 桂舟
 きし等やほつらうり下話の通うぬ カ 露芭
 くれうらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 南傾

維子

ふうや一飯の飽よもきーのきー カ 李唐
 多らやうらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 霜を
 うらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 松月
 うらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 雨来
 うらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 天外
 うらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 天外
 うらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 員米
 うらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 秋筆
 うらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 升六
 うらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 車端
 うらきれとまのちてくるひよりかぬ カ 警女

燕

猫の意 ち何ふる百あともては猫の意 イヨ 虎角

雲 雲 雲もらふりとね、の意 ノト 寒崖

か かのの 舟のあつたや猫の意 リ所 素頑

う 舟のあつたや猫の意 イ 氏坊

蛙 蛙のあつたや猫の意 他 乙二

古 古のあつたや猫の意 イセ 二中

難 難のあつたや猫の意 イセ 秋助

有 有のあつたや猫の意 セ 井局

白魚 白魚のあつたや猫の意 セ 鳥頂

ち ちのあつたや猫の意 イセ 蝶丈

鳥 鳥のあつたや猫の意 イセ 李長

さ 木のあつたや猫の意 ナニ 其長

こ 木のあつたや猫の意 イセ 其桃

海 海苔のあつたや猫の意 イセ 其遠

田 田のあつたや猫の意 イセ 其遠

田 田のあつたや猫の意 イセ 其遠

ゆ 山のあつたや猫の意 イセ 其遠

立 立のあつたや猫の意 イセ 其遠

立 立のあつたや猫の意 イセ 其遠

立 立のあつたや猫の意 イセ 其遠

正月

西のやうなふらふらうきげん

五英

ふかきうらうらふらふらふらふら

吐 白井

ふかきうらうらふらふらふらふら

梅松 五子

二月

津ふつりくまについでにぬる

未 徹

ふかきうらうらふらふらふらふら

数 一七

ふかきうらうらふらふらふらふら

和山 三

ふかきうらうらふらふらふらふら

変 一七

ふかきうらうらふらふらふらふら

楊士

ふかきうらうらふらふらふらふら

菅 旭

ふかきうらうらふらふらふらふら

月 一七

六

傀儡

きこしにのこつてまの入れし

弁 舟

あつた十の花乃やふらふら

士 朗

傀儡陣 悔りこゝろ京 とき

矩 隨

春日

踏出 へりへりへりへりへりへり

三 津人

ふかきうらうらふらふらふらふら

静山 一七

松とりのつまやうなるものか

鬼 大

松とりのつまやうなるものか

電山 一七

梅とりのつまやうなるものか

梅 價

春夜

ふかきうらうらふらふらふらふら

六 雲

ふかきうらうらふらふらふらふら

千 屋

春の月

そのしるしは他ふせしるる

イカ 梧桐

春の月 一鴨入り田に暮るしついでその月

モロ 士明

雪のふりもくしついでその月

ナラ 左禽

行所やふしついでその月

イ 布雪

解衣の積家つやもその月

コト 今南

うしひついでその月

〃 掬水

ふのやこに束のついでその月

〃 一羽

ふしついでその月

ナタ 里丸

嵐もくしついでその月

コトサキ 下雪

浦もくしついでその月

チセシ 泉友

春の風

よのきつはれめをさついでその月

イカ 士得

一里ついでその月

サシ 若梁

その風もくしついでその月

イ 花羽

その風もくしついでその月

ナタ 梅ぬ

料もくしついでその月

チセシ 南枝

春の月

日のなれはついでその月

サキ 糸月

その月もくしついでその月

イカ 雛風

その月もくしついでその月

イカ 酢

雛のちついでその月

イカ 信文

日乃しついでその月

イカ 鹿所

荒去りし人跡ふたりさめぬ

百巻

かふふいよはつきまじしものゑ

一透

とらふの十なり二月の花うら

花先

春の水

ふあふりけりまじしものゑ

三巻

とらの水ある木根りあるれり

野楊

西月乃凡たそくけりりり

五巻

小舟りよよ門田の末乃そり水

希玉

ふらふらやぬらふらふら

甘古

春のふ

川もまじまじしものゑ

夢川

おのちいふらふらりしものゑ

吾花

春の海

よの海まじまじしものゑ

仙草

春の音

大さなりけりしものゑ

夜穂

積りなはれりしものゑ

考例

春の霜

よの霜まじまじしものゑ

呂乙

春の魚

ほつとまじまじしものゑ

魚人

春の草

青田や花さふらふら

迎春

海苔のちれりしものゑ

魚眼

れりしものゑ

林史

旅衣々の飾りしものゑ

湖山

ねのちや余さしものゑ

萱々

士	李	服	其	猪	芳	一	瑞
明	友	非	梅	菜	水	峰	馬
ハ シ	イ カ	ク ヨ	フ ハ	ト タ	ト タ	ト タ	ト タ
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~

亞	楚	又	月	車	光	里	三	春	夜
漢	山	古	化	演	光	大	日	裡	居
イ カ	ト タ	ト タ	ト タ	ト タ	ト タ	ト タ	ト タ	ト タ	ト タ
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~

杜	月	車	光	里	三	春	夜
君	化	演	光	大	日	裡	居
ト タ	ト タ	ト タ	ト タ	ト タ	ト タ	ト タ	ト タ
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~

百合

あつちやうまの百合うまにたり

蓮花

まじらうらあやうも百合なるも

五園

百合のふとくもふもあ風情か

未だ

原の花

あつちやうまの百合うまにたり

長崎

つらふ

まじらうらあやうも百合なるも

一翁

昼ふ

あつちやうまの百合うまにたり

九十

夕ふ

あつちやうまの百合うまにたり

一翁

河骨

あつちやうまの百合うまにたり

眠子

あつちやうまの百合うまにたり

雄淵

花の花

あつちやうまの百合うまにたり

赤后

お花

あつちやうまの百合うまにたり

井尻

お花

あつちやうまの百合うまにたり

約首

あつちやうまの百合うまにたり

結雪

あつちやうまの百合うまにたり

五羽

あつちやうまの百合うまにたり

古縁

あつちやうまの百合うまにたり

金花

あつちやうまの百合うまにたり

巴峯

あつちやうまの百合うまにたり

十六

あつちやうまの百合うまにたり

泉丸

世

遠里や凡ふささるけーのむ 六 壱

栲の花 栲の花ささりふけーのむ 七 竹

かうにもよもみれ付て栲の花 八 竹

い〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ 九 下方

栗の花 くらげもるにささる〜 十 勝

月のももあれちもありて栗のむ 十一 史

栲 くらげの〜や栲の〜ふ〜 十二 壱

夏木立 夕凡のちるくらげから〜 十三 壱

旅人れは〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 十四 壱

夏木立 栲乃〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 十五 良

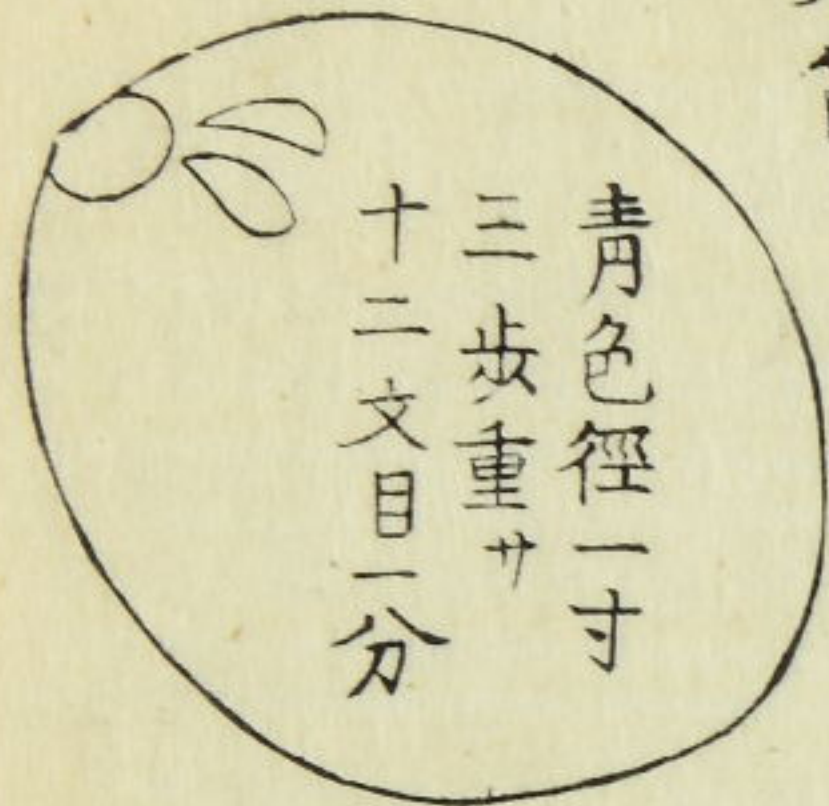
花鳥文庫 壱之部

水鶏 旧のさ乃水鶏〜 十六 米

もすの白の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 十七 其

崖垣乃〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 十八 玉

水鶏笛



翁所おとす芳ゆ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

水鶏の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

大芳

廿六

紺くわくも鶴のさきくら

小会 康哉

啼も仰け水鶴の長のきざれ

小会 栞条

初風をうらみたり鶴

漢羽

あけそらもあまこころりて啼ふ鶴

歌月

ゆき子 吹もせき夢乃きよひこ

遷春

牛の尾の風を柳までゆき

アキ 結宅

年よりも眼よさらうりゆき

京祝

行きりもし主りてゆき

楚海

ひししと来ゆきゆき

小会 文宵

困き 二井るのさくく人む困

小会 了困

虎杖乃弁うもさうの困

法 名深

きくはくもあふもやふも

多 宗徳

うらみはさひのさくひんこ

は夜 一子

ふもさる弁のあやまの困

小会 小阿

うらみはさひのさくひんこ

小会 考徳

松のふれ濡をくらうんこ

小会 左涯

子規 かききん啼くくくぬのあ

孝吉

古雲のあはれやかくきん

篤老

あやゆみさるふあれの歌

二首

あはれはさくきん啼のあ

古阿

汗中巾よの山舟しわしきと
 啼うしと照るうらなやとよ規
 けしきれはらた君とひしうか
 り規ねるうそしうち園をか
 るのしとらしてたふもとよ規
 花乃笑もれちみたりしきん
 けしきれあやうしわの牡丹
 あしよをたうしわのきん
 あしきよのたのきよる規
 月あつとつゆしきれあやうし

六書
 固来
 双鳥
 其映
 也言
 完齋
 程登
 苗峰
 醉月
 一州

蝉

夏蝶

わしきれあつとつゆにのりふし
 子規果のあつとつゆにのりふし
 けしきれあつとつゆにのりふし
 花乃笑もれちみたりしきん
 幸いんあつとつゆにのりふし
 あつとつゆにのりふし
 啼うしと照るうらなやとよ規
 蝶鳴しわらわしきとよ規
 空むつとつゆにのりふし
 けしきれあつとつゆにのりふし

千屋
 冬齋
 橋中
 圭兩
 車大
 春或
 琴備
 夏太
 葉染
 坂友

わろ ころろやるふうけつ飛やる

五来 武松

浮粟 粟代きくろろや ぬろのろろり

五来 五来

ふたりのろろのちてりくま粟小

三顧 梅向

考ふす ちうろろろろの考考くろ

三顧 三顧

うのろろろろろろろろの種

細月 細月

考れ考てけ信し 弁 狂

狂 狂

老と年 ころろろろろろろ

狂 桐芽

四月 啼 咆ろろろろろろろ

狂 狂

ころろろろろろろろろろ

狂 竹雅

ころろろろろろろろろろ

狂 久甫

やまへのろろろろろろろ

竹入

ころろろろろろろろろろ

久野

ころろろろろろろろろろ

其電

れろろろろろろろろろろ

中卒

高野

ろろろろろろろろろろ

高野 宇栢

相のろろろろろろろろろ

高野 高野

荒れろろろろろろろろろ

帆旭

ろろろろろろろろろろ

榮舟

ろろろろろろろろろろ

干親

ろろろろろろろろろろ

管音

水音

くさくさやうきまよふと

令虎

子長

くさくさやうきまよふと

圭兩

後天乃のまゝなり成るる合款のま

流光

子一うたのほろのまゝなり并一第

まト

後天とあがりしりしてまゝなり

李卓女

くさくさやうきまよふと

後芝

子一うたやうきまよふと

四海

後天の世界へまゝなり

蘭兄

くさくさやうきまよふと

二鶴

本つれまゝなりして後よき

芳岳

更衣

くさくさやうきまよふと

束芦

更衣

くさくさやうきまよふと

升六

更衣

くさくさやうきまよふと

開花

帷子

くさくさやうきまよふと

成美

帷子

くさくさやうきまよふと

二中

帷子

くさくさやうきまよふと

曉夕

帷子

くさくさやうきまよふと

車渡

帷子

くさくさやうきまよふと

毛筆

帷子

くさくさやうきまよふと

豊々

帷子

くさくさやうきまよふと

丁竹

稼

為りのゆき一葉つのもちよした

霜操

青ま

もよもよれをよついでんるうも

豊

氷室

急なうまをとりついでんるうも

春

扇

小雀乃背もよもよもよも

故友

佛會

ひよりのけりけり佛生會

三子阿

川社

松原乃やてよもよもよも

多頃

初盤

うり盤をひもよもよも

宗柳

初巻

細巻のもよもよも

筆

うり巻をひもよもよも

一陽

茂り

降りきり夕なれんるる

候石

下り巻をひもよもよも

五系

筆

筆をひもよもよも

文系

うり巻をひもよもよも

約翁

筆をひもよもよも

井肩

うり巻をひもよもよも

祇山

うり巻をひもよもよも

巻丸

夏草

うり巻をひもよもよも

対竹

春草

うり巻をひもよもよも

其梅

苗代

苗代やうり巻をひもよもよも

相芽

田植

も天の糸あつちうへ田植り那 文徳

夕うりてふ不植さる田頃か 魯漢

松う布とたうりて片付田うへか 約角

青田

とつるへりやも田り羽鳥 雙純

青尻

五まふふのふりもけり 大阜

まふり かつ田義入勢勢 年依

味

田一敷もりきほみ小 圭

月そり長と小柳の末のめれ 蜀雅

下りちよもわいそくそ弁の皮 小原

味しちやの羽さる宵の肉 田江

鷲乃下りさうへ垣根うま 白雁

白濱や海士のちさうる夕涼 芝 芝柳

極むりち芒もありてすまふ 筆堂

暑

あけきりの眼を休らる柳うま 瑞馬

宿りの入口うまらうそふ 伝略

夕立

ゆつららの津やよのや降り 直依

夕立乃降り中うまね乃堤 井眉

夏雨

さうりのるちりさるもけり 中畑

夏雲

夏乃中り皆白雲とくにあり 鳥頂

夏月

蛤の瘦いもさる夏乃月 三津人

まろの目とこぞてく乃に折

驪山

つらら〜んふら〜れま〜まの月

武蔵

まろの月とわのねと〜あがり

岳輪

夏

く〜り〜り〜まに〜る〜まの庵

大卯

ま〜りの〜ち〜り〜ま〜れ〜ん〜ト

芝堂

入おの〜ら〜し〜よ〜ま〜し〜こ〜ふ〜り

瑞る

夏の水

ら〜ら〜ら〜や〜よ〜ま〜り〜の〜く〜ま〜の〜ぬ

分玉

清ら

さ〜〜の〜ま〜あ〜て〜ほ〜〜し〜し

悟雪

田の〜く〜ま〜の〜ま〜り〜よ〜あ〜る〜ほ〜〜し〜し

桐芽

踏〜く〜ん〜く〜〜〜よ〜ま〜の〜さ〜〜し〜し

雲平

雲の〜ゆ〜ら〜ら〜〜り〜ふ〜さ〜く〜り〜り〜り〜や〜の〜峰

芝丸

か〜り〜ま〜の〜ま〜ん〜日〜し〜や〜ら〜ら〜ら〜ら

松人

ふ〜り〜げ〜い〜無〜〜し〜雪〜あ〜り〜や〜の〜峰

豊々

口〜ゆ〜き〜の〜ん〜ふ〜り〜く〜ま〜れ〜ら

紫兮

花端

花〜端〜ゆ〜し〜の〜あ〜り〜ら〜る〜ら〜白〜ゆ

流光

ら〜く〜〜花〜端〜り〜し〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

里人

ふ〜ら〜ゆ〜あ〜花〜し〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

春人

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

波部

あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

芦節

あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

磯兄

趙南ニ字ヲあやうクしキ也リ

范蠡至陶致貲鉅萬自謂陶朱公中子殺人囚於
楚朱公曰吾聞千金之子不死於市告其少子曰
往視之長男曰家有長子曰家督乃遣少弟是吾
不肖也欲自殺朱公不得已遣長子至則楚王論
殺朱公子明日下勅長男持其弟喪歸朱公笑曰
吾固知其心殺弟汝見吾貧苦時重惜金所以卒
殺汝弟如小弟生見我富乘堅驅良豈知財之從
來吾欲遣小弟為能棄財也史記

山家集

范蠡の事

范蠡の事

西

井眉菴編集目錄

正月日記

代卜山

芦室集

花鳥文庫

四季花鳥の句年々其の好五月
出板秋の初十月と板あるは其の好

七部集解 近刻

四季文集 同



